

## ■ 平成28年8月23日（火）観光振興対策特別委員会県内調査

### 1 興福寺

#### ア 調査目的 中金堂の再建について

#### イ 施設概要

- 【歴史】669年 藤原鎌足の妻が夫の造った釈迦三尊像を安置  
するため、京都山科に山階寺を建立  
672年 飛鳥の地に寺を移し厩坂寺を建立  
710年 平城京に遷都され、藤原不比等が寺を平城京左京三条七坊の地に移し、興福寺と  
名付けた。
- 【伽藍】国宝館、東金堂、中金堂、五重塔、北円堂、南円堂、三重塔他

#### ウ 調査概要

- ・興福寺は、日本の寺院の中で、最も火事が多かった寺院とも言われており、創建以来度々の火災に見舞われ、現在創建当時の建物は残っていない。
- ・中金堂は7回火災があったが、火災のたびに再建された。1717年、7回目の火災で焼失し、徳川将軍に再建を要請するが断られたため、資金調達に努め、約100年後の1819年に多くの人からの寄進で、本来より一廻り小さい仮堂が建てられた。明治期1871年に国に没収されるが、1883年に返還される。
- ・平成3年から興福寺境内整備委員会を設置し、各界の学識経験者等による整備の進め方について検討していたが、平成22年が創建1300年にあたることを契機として中金堂とその周辺整備を進めることとなった。平成20年に基壇整備が完了し、今年中に再建工事を終え、平成30年に落慶の予定である。
- ・再建にあたっては、用材の調達が最も困難であった。中金堂は平城京大極殿とほぼ同じ規模であるが、かなり多くの木材量が必要であり、国内での調達はできず、アフリカ中央部から調達している。
- ・再建にかかる費用は、周辺整備を含めて約60億円。
- ・創建当時の基壇、礎石が残っていたことから奈良時代当初の中金堂の姿がほぼ復元できたことになり、非常に意義深いと考える。また、観光面においても中心的な位置にあり、奈良の観光に大きく寄与すると考える。

#### エ 質疑応答

Q：中金堂の耐震についてはどのようにされているか？

A：創建当時から残っている基壇、礎石には触れることができないため、地上げをしている。耐震については、先に国が行った平城京大極殿を復元する際の耐震補強の方法を中金堂にも採用している。大極殿は基礎がないため免震構造をとっており、中金堂は基礎があるので耐震補強という形で行っているが、大極殿とほぼ同等と考えてよい。



## 2 国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区

### ア 調査目的 キトラ古墳壁画体験館四神の館の整備について

### イ 調査概要

#### <国営飛鳥歴史公園について>

- ・当公園は昭和45年に設置。当初は石舞台地区、甘樫丘地区、祝戸地区の3地区であったが、その後高松塚壁画が発見され、高松塚周辺地区を追加。平成12年にキトラ古墳が特別史跡に追加されたことから、平成13年より事業化され、現在では5地区からなる公園となっている。
- ・祝戸、石舞台、甘樫丘、高松塚周辺の4地区(46.1ha)が平成6年までに開園しており、現在、キトラ古墳周辺地区(13.8ha)の整備を推進中。

#### <キトラ古墳周辺地区の整備について>

- ・平成13年3月に国営公園として整備することが閣議決定され、平成18年3月に基本計画を策定。周辺との一体的な調和を図りながら、古都飛鳥の歴史的風土を体験しながら学習できる拠点整備を推進しており、平成28年9月24日に開園する予定。
- ・キトラ古墳そのものは特別史跡に指定されており、文化庁が整備を行っている。
- ・「キトラ古墳壁画体験館 四神の館」は、キトラ古墳壁画の保存・管理と併せて古代飛鳥の技術や文化について、展示・体験・案内を通じて学習できる拠点として、整備を実施。
- ・構造は地上1階、地下1階となっており、地上1階の壁画保存管理施設ではキトラ古墳壁画実物の展示、管理を行い、地下1階の展示室等では体験的な歴史学習できる施設となっている。地下1階は国土交通省国営飛鳥歴史公園事務所が、地上1階は文化庁が整備を実施。

#### 【キトラ古墳壁画保存管理施設】

- ・9月24日から3枚の壁画（天井の天文図、朱雀、白虎）が展示される予定。
- ・展示ケースは免震構造となっている。修理直後は、平面置きでの展示となるが、将来的には斜め置きでの展示をする予定である。
- ・壁画は期間限定で公開するが、通常は1枚を展示し、特別な行事等がある際には複数枚展示する形を考えている。
- ・副葬品等出土品の展示ケースも設置し、通年に近い形で展示できるよう検討している。

